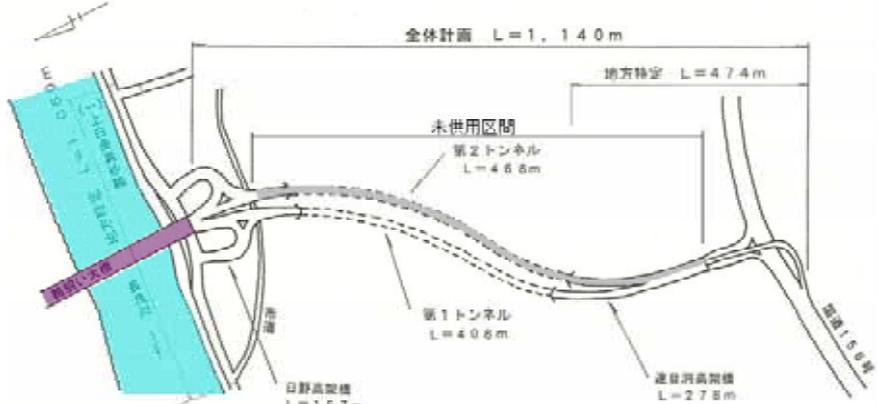


再評価結果（平成17年度事業継続箇所）

担当課：中部地方整備局 道路部 地域道路課
担当課長名：田中 隆司

事業名	主要地方道 <small>ぎぶかんじょう</small> 岐阜環状線	事業区分	地方道	事業主体	岐阜県
起終点	自：岐阜県岐阜市日野西 至：岐阜県岐阜市日野南	延長	1.1 km		
事業概要：主要地方道岐阜環状線は、岐阜中心部の外郭をループ状に結ぶ延長13.6 kmの環状道路であり、平成15年3月に井ノ口トンネルから国道156号間の1.1 kmが完成し、環状道路として全線が開通した。しかし当区間は暫定2車線での供用であり、現在も鋭意4車線化工事を進めている。					
H7年度事業化	昭和42年都市計画決定 (H7年度変更)	H7年度用地着手	H7年度工事着手		
全体事業費	154億円	事業進捗率	99.4%	供用済延長	1.1 km
計画交通量	23,100台/日				
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体)	総費用 (事業)/(事業全体)	総便益 (事業)/(事業全体)	基準年 平成16年	
	2.6 (残事業)	1.8 / 182億円 (事業費：1.0/181億円 維持管理費：0.9/1億円)	203 / 465億円 (走行時間短縮便益：191/464億円 走行費用減少便益：8/-1億円 交通事故減少便益：4/2億円)		
感度分析の結果：残事業（事業全体）について感度分析を実施 ・交通量変動：B/C = 92.1(2.4)【交通量+10%】 B/C = 131.3(2.8)【交通量-10%】 ・事業費変動：B/C = 106.1(2.3)【事業費+10%】 B/C = 118.0(2.8)【事業費-10%】					
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（環状道路の整備による市街地内交通の緩和） ・都市の再生（都市計画事業土地区画整理等の沿道まちづくりとの連携） ・個性ある地域の形成（世界イベント村および長良川（鶺鴒）への観光客の増大） ・安全で安心できるくらしの確保（岐阜大学病院、県立岐阜病院等へのアクセス向上）					
他10項目に該当					
関係する地方自治体等の意見 ・（主）岐阜環状線は岐阜市幹線道路網の骨格をなす環状道路であり、市街地に流入する通過交通を減少し良好な市街地形成に大きく寄与するため、岐阜市より早期整備の要望(H16,7,15)がある。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・岐阜環状線の供用前は岐阜中心部に向かう交通と、名古屋方面へ向かう交通が混在していたが、供用後は名古屋方面への交通が環状線を通るため、岐阜中心部への交通が減少し、朝夕の混雑が緩和されたが、4車線化によりさらなる渋滞緩和が期待できる。					
事業の進捗状況、残事業の内容等 ・平成15年3月に岐阜環状線東回りルートのうち残り1.1 kmが完成し、全線が開通した。このうち井ノ口トンネルから国道156号間延長1.1 kmについては暫定2車線で供用しており、現在も鋭意4車線化工事を進めている。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 ・用地買収は終了しており、平成17年度に全線完成4車線供用予定である。					
施設の構造や工法の変更等 ・鶺鴒大橋を中心とする景観や周辺環境の自然に配慮し、井ノ口トンネルの坑門タイプを面壁式から竹割式に変更している。					
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	・以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。				
事業概要図					

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものである。